

第15回日本在宅医学会大会 ランチオンセミナー11

日時:2013年3月31日(日) 12:10~13:10

会場:ひめぎんホール(愛媛県) 真珠の間B

多職種で考えたい、市中在住痙縮者のための
ボツリヌス療法と家で行う前後のケア
—運動・電気治療・装具とそれから—

座長

大田 哲生先生

旭川医科大学病院 リハビリテーション科
教授

演者

沖井 明先生

医療法人和会 沖井クリニック



第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	ランチョンセミナー
共 催	グラクソ・スミスクライン株式会社
タイトル	多職種で考えたい、市中在住痙縮者のためのボツリヌス療法と家で行う前後のケアー運動・電気治療・装具とそれからー
日 時	平成 25 年 3 月 31 日 12 : 10~13 : 10
会 場	真珠の間B
演 者	医療法人和会 沖井クリニック・沖井 明先生
座 長	旭川医科大学病院リハビリテーション科・大田 哲生先生
企画趣旨	<p>近頃、ボツリヌスの話題をよく耳にします。最近の治療のように聞かれる A 型ボツリヌス毒素の治療への応用ですが、実はまだボツリヌス菌すら発見されていない 19 世紀から言われていました。実際に患者さんへ投与できるようになったのは 20 世紀に入ってからで、臨床応用後は、海外では大きな拡がりを見せ、上位運動ニューロン障害によって筋緊張の亢進した状態である痙縮に対して盛んに用いられていました。日本でも遅れて、1996 年、希少疾患に対する治療法としての適応承認から 2009 年の脳性麻痺の下肢、2010 年の上肢下肢の痙縮へと適応を拡大し、国内でも痙縮に困る患者さんに対するボツリヌス療法が普及してきました。</p> <p>ボツリヌス療法は筋の異常な緊張を軽減させますが、それだけで終わりです。</p> <p>痙縮に対するボツリヌス療法の効果を本人だけでなく、社会も納得する、実のあるものにするためには、リハビリなどで、変化を運動・行動に結び付ける機会を整える必要があり、様々なガイドラインでも治療後に生活の好ましい変化などの十分意味のある効果を生み出すには「のちのリハビリが大事」と言われています。しかし、それがどのような内容のものなのかについては、十分なコンセンサスが得られていません。</p> <p>セミナーではどのような症状にどのように施注するのかわけだけでなく、在宅患者さんへのボツリヌス療法の前後に、行えるケアと指導の在り方について、訪問リハやデイケア・デイサービスとのコミュニケーションについて、お話しします。そしてつたない経験ではありますが、施注の後で在宅患者さんたちに起きた「こと」についてお話しできたらと思います。</p>